



シェイクハンド

第67号
R5.1

～静岡県訪問看護ステーション協議会便り～

なやみは半分、よろこび倍増

さあ みんなで手をつなごう!!



令和5年 新年のご挨拶

静岡県訪問看護ステーション協議会 会長 渡邊 昌子

新年あけましておめでとうございます。

新しい年を迎え、皆様が「平和で希望に満ちた年であるように」と願われていることと思います。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の対応はもとより、台風15号により県内で多くの被害があり、訪問看護ステーション（以下ステーション）においても、対応に大変ご苦労されたと推察しております。その中で各事業所が、利用者の皆様、職員の皆様の安全安心を第一に優先すべき訪問を実施されるとともに、近隣地区で声をかけ合い、ステーション間の連携・協力のもと訪問看護が継続できるよう対応していただきました。改めまして、皆様に感謝と敬意を表します。

訪問看護ステーション協議会（以下本会）の以下の3点の事業について、今年の抱負を述べたいと思います。

1点目は、令和4年度に感染時における地域での応援体制による「地域BCPモデル事業」を実施しました。今年は地域全域に広め、実際の活動としての評価を行ってまいります。また、災害時においても、感染症時のBCP同様に作成し、有事の際に活動できるよう取り組みます。

2点目は、令和3年度から静岡県看護協会と協働し、ステーションの基盤強化のために日本看護協会のモデル事業である「訪問看護総合支援センター（仮）の構築」に取り組んでいます。

各事業所で事業継続ができるよう管理者の資質向上と経営向上をめざし「共に学び、共に成長するために」をコンセプトに、令和3年度管理者育成プログラム委員会において「静岡県訪問看護管理者育成プログラム」を作成しました。

新任管理者、管理者の人材育成に焦点を当て、管理者としての知識・技術等の基本を学ぶとともに、管理者としての学び直しの機会とし、令和4年度7月よりプログラムの浸透のための「管理者育成研修」を実施しました。令和5年度からは本会に移行し、県行政の委託事業として継続してまいります。多くの皆様にこのプログラムを活用していただき、修正等加えながら管理者の強みを拡大し、質の向上につなげてまいります。

3点目は、令和3年度本会研修委員会で作成したACPシートを利用者・ご家族の皆様の意思決定のツールとして活用し、その人らしく生きるための人生最期の生活の質の向上に寄与してまいります。

今年も皆様の声を大切に、最善の看護の提供と満足感につながる活動になるよう尽力して参ります。苦境から脱し、訪問看護事業の推進ができますよう引き続き、皆様のご協力、ご支援をお願いするとともに皆様のご活躍とご健勝を祈念いたします。

本年も、何卒よろしくお願いたします。



小児訪問看護研修を受講して

訪問看護ステーションうしぶせ 綿引 里美

小児の疾患と病態生理を理解し、在宅療養を支えるための制度や訪問看護としての役割を学び、状態に応じた看護サービスが提供できるよう実践能力を高めます。

本年度も小児訪問看護研修を東部・中部・西部の3会場で開催しました。今回は東部会場で受講された方に研修の感想を伺いました。

2日間の研修で、医療的ケア児の現状と教育、小児看護の基本と小児在宅医療、小児リハビリや在宅療養児の訪問看護の管理と実際、放課後デイサービスについて学びました。

医療的ケア児支援法が成立し診療報酬の改定、国や地方自治体における整備が進む中、静岡県の事業として医療的ケア児等支援センターが令和4年7月4日に開所し、様々な相談が寄せられています。医療的ケア児を受け入れるショートステイのベッド数が少ないことや、コロナの影響で拡充できない現実があり、すぐに解決できない相談も多く法律ができたからと言っても、猶予がなく体制が整っていない状況で困窮していると知りました。人員確保の取り組みとして、ケアスタッフの養成研修の拡充や、新規に福祉系専攻の高等学校等での講義が盛り込まれ、当事者家族の不安解消と円滑なサービス移行を図る為に就学期、成人移行期、入所検討期などライフステージの転換期に合わせた説明会も開催されることになりました。当事者家族にとっては切れ目のないサービスが必要な為、重要な事であり安心につながる取り組みだと感じました。

2日目の研修は事例を通しての看護の実際で、とても興味深い内容でした。呼吸リハビリについては内容も盛り沢山で、時間が足りないと感じました。小児リハビリ研修を受講機会があれば、また参加したいと思いました。体位排痰法の様々な手技の中でも、ゆすり法は、弱く柔らかく。胸郭拡張法は、呼吸4回に1回位、吸気に合わせ胸骨・肩甲骨を広げていく。1回換気量を見ながら、その児が一番気持ち良いと感じる方法で行う事が大切であり、小児の場合グッと押して、戻ってくる力が無く無気肺となり易い為、スクイーピングはあまり効果が無いと学びました。

北野先生の「子どもだけが成長するのではなく、パパとママも一緒に成長していく」「呼吸器を付けている子どもを育てているという事が両親の自信となっていく」との言葉は、私も日々の訪問で実感しています。当ステーションが関わっている医療的ケ

ア児のパパやママ達も子どもが安定して成長していく中で、退院直後の不安定だった精神面が落ち着きを取り戻し、徐々に手技もスムーズに行え、いつもと違う子どもの状態に気付き対応できるまでとなっています。なによりも訪問の度に「すごく可愛い」「また大きくなった」「こんな事ができるようになった」と子どもの成長を喜ぶパパとママの笑顔が増え、私達も幸せな気持ちになっています。

放課後デイサービスは人員不足やコスト面から看護師を常駐するのが難しかったが、3月に医療連携体制加算額が見直しとなり訪問看護に適切な報酬を支払えるようになった事で、医療的ケア児の受け入れも可能になったそうです。医療的ケア児が家庭から地域へ、家族以外の人との関わりで世界を広げていける事と同様に、育てているパパやママも家庭の中だけでなく社会の一員として就労したり、自分自身や医療的ケア児の兄弟姉妹とだけ関われる時間を確保しリフレッシュする事はとても重要で、それを訪問看護が支援できるのは有意義な事であると強く感じました。

医療的ケア児の訪問看護の実際では事例紹介がされました。疾患、家族構成や関係、医療デバイスや利用サービスはそれぞれ違っても、パパやママの困り事を聞き、体調変化のある時は関係機関と連携を取り、対処する事で「みんなで育てていく」関係作りが最も大切な事だと感じました。今後は成人と同様、小児の在宅看取りも増えてくると考えられます。本人や家族が望むのであれば叶えてあげたい。そのためにも小児を受け入れる訪問看護ステーションの増加が急務であると感じました。





訪問看護管理者育成研修

管理者としての役割を理解し、人材育成や事業運営の基礎的な知識を学び、適切な管理運営ができる能力を高め、看護の質の向上を図ることを目的としています。



研修日：令和4年8月27日(土)・28日(日)

会場：クリエート浜松53会議室（西部会場）

研修内容：

1日目 管理者育成プログラム活用方法について
人材育成のためのコーチング手法

2日目 訪問看護ステーション経営戦略

～管理者に求められる経営の視点～

参加者：17名

訪問看護管理者育成研修に参加して

訪問看護ステーションすずかけ 唐木 ななえ

私は今年3月に管理者に就任しました。就任当初は「私は管理者なのだから、スタッフが困らないように自分が何とかしなければ」と管理者の役割もよくわからないまま、あれこれと仕事を抱え込み疲弊する毎日でした。自分がやっていることが正解なのかわからず、自信もなく不安だらけでした。弱音を吐く場所もなく「管理者なんて大変なばかりで楽しくない」「管理者はできて当たり前で、どんなに頑張っても褒めてくれる人がいない」と管理者という立場に嫌気を感じることもありました。

そのような中、訪問看護管理者育成研修に参加しました。研修の中で、私と同じように「管理業務とは何をすればいいのかわからない」「相談相手がいないと孤独を感じている」と悩みや不安を抱えている管理者が多くいる事を知りました。それだけでも「1人じゃない」と感じ、少し心が軽くなりました。また「初めからできる管理者はいない、今はできなくても当たり前」と言ってもらえたことが、今の自分を認めてもらえたようでとても安心しました。

今回の研修では、訪問看護管理者育成プログラムの活用方法やコーチングの手法、管理者に求められる経営の視点について2日間かけて、じっくり学ぶことができました。訪問看護管理者育成プログラムにある、訪問看護管理者評価表は、管理者に必要とされるスキルが書かれており、自分の弱み・強みがわかりやすくなっています。自分に不足しているスキルがはっきりするため、何に取り組めばよいかわかります。研修中に自己評価をして、それを基に現在学習を進めているところです。コーチングの講義からは、日々のスタッフとの関わりの方のヒントを学びました。訪問から戻ってきたスタッフになるべく声をかけ、話を聴き、フィードバックをするように心がけています。管理者に求められる経営の視点については、経営に必要な数値の見方・考え方を学びました。毎月、訪問件数や新規の人数等を把握し報告はしているものの、何のためにその数字を把握し、その数字が何を意味しているのかを考えたことがありませんでした。数字から見える課題に気づくことができれば、対策をとることができ、安定

した経営につながるようになりました。

この研修に参加したことで目標が見え、これからも頑張ろうという励みになりました。

訪問看護ステーション貴布祢 白幡 友子

私は訪問看護ステーションの所長になり3年目になります。所長に就任してからは不慣れな管理業務はもちろん、利用者に関すること、スタッフに関すること、また新型コロナウイルスに関することなどで不安・緊張でいっぱいの日々でした。毎日があわただしく過ぎ「自分を顧みることがなかなかできていないな」という思いを常に抱えていたように思います。

静岡県訪問看護ステーション協議会が作成した管理者育成プログラムでは、到達すべき目標が明確化されており、自分が何を理解して何を勉強すべきなのかわかるようになっていきます。実際に点数をつけチャートにしてみると、運営基準や経営に関する知識が足りていないことがわかりました。参考文献等がわかりやすく示されているので、今後理解を深め経年的に自分を振り返るツールとして活用していきたいと思います。

コーチングに関する知識・技術は、私の中で一番苦手な分野でした。日頃のスタッフとの関わりはどうしても感覚的なものになりがちで、相手にとって納得できる助言や見守り方ができているのかどうか疑問に思っていました。講義を受け、ただこちらから与えるだけでなく、スタッフ個々の状況や持っている力を見極め、自立できるように関わっていくことの大切さを学びました。またロールプレイで体験した、スタッフ自身の考えをきくという手順をしっかりと踏みながら、ひとつひとつ支えていきたいと思います。

研修を通して他の参加者と話をする中で、同じような悩みを持っている所長がたくさんいることがわかりました。「これから、わからないことをぜひ教えてください!」という声の掛け合いができたことで、所長の仲間がいるんだという安心感を得られました。今回の研修でモチベーションを高めてもらったので、またこれから利用者とスタッフが元気で過ごせるよう、所長として支えていきたいと思います。



ステーション紹介

東部 ラポールあい訪問看護ステーション

野中 美保子

大河ドラマ「鎌倉殿の13人」でもお馴染み、北条家ゆかりの地である伊豆の国市にあります、ラポールあい訪問看護ステーションです。ラポールはフランス語で「信頼」、あいはさまざまな「愛」を表現しています。当ステーションは平成26年7月に開設、居宅介護、通所介護事業、共生型サービスを提供し、令和2年より看護小規模多機能型居宅介護、認知症対応型共同生活介護施設を開設しました。「安心して豊かに暮らしたい」という願いを、年齢、障害の有無に関わらず叶えていける様に支援する共生型複合施設となっています。当ステーションでは、新生児から高齢者とあらゆる年代の方を対象に、人（心）と人（心）の繋がりを大切に、その人にとって何が大切かを考え寄り添いながら、住み慣れた地域で尊厳をもって「その人らしく」暮らし続けられる支援を理念としています。スタッフは看護師4名、事務1名で、子育てや介護をしながら「お互い様の精神」と「思いやりの心」で協力しながら働いています。

多死社会と終末期医療の多様化に伴い、地域医療や地域包括ケアシステム構築が推進され、地域に暮らす人々の多様性・複雑性も増しています。その人

に寄り添ったケアが行えるようスタッフ間でのタイムリーな情報共有を大切にしています。また、質の高い看護を提供するために積極的に研修に参加しています。他にも地域の病院やケアマネジャー、他職種サービスと密に連携・協働を図り、臨機応変に迅速な対応ができるよう心掛けています。病院から在宅へ、在宅から病院への橋渡しをしながら、地域の人々が安心して暮らせるよう今後も努めていきます。

次は「訪問看護ステーションかえで」さんです。



中部 訪問看護ステーションあんどう

浅岡 梨恵

はじめまして。訪問看護ステーションあんどうです。静岡市の街中にほど近いところに事務所がありますが、徒歩圏内に城北公園や浅間神社、駿府公園などがあり緑豊かな環境にあります。

あんどうは平成29年に開設しました。スタッフの人数が少なく、小さなステーションですが、利用者一人ひとりに寄り添うことを大切にしています。設置母体は認定NPO法人生き生きネットワークで、訪問看護のほか、通所介護・訪問介護・放課後等デイサービス・託児所等の事業所があり、小さな子どもから高齢者まで利用者がいます。「何でも困りごとに対応します」が事業所全体の理念です。利用者の

中には高齢の夫婦二人暮らしのお宅や独居の方が多いので、理念に基づき利用者の「困った」や「来てほしい」に柔軟に対応できるように心掛けています。

利用者数は少ないですが小児も対応しています。子どもたちの笑顔や日々成長していく姿を、家族と一緒に見守ることにとても喜びを感じます。

また、静岡市難病患者等介護家族リフレッシュ事業を受託し、就学支援と在宅支援にも力を入れています。就学支援で見せてくれる授業をがんばる姿やクラスメイトたちと触れ合っ嬉しそうにしている表情、在宅支援に入ることにより介護をしている家族が少し休めたり用事を済ませることができ「あり



がとう、助かった」と笑顔でお話ししてくださることが私たちの原動力になっています。介護をされている家族が身体的に大変な時や心が疲れてしまった時、私たちはそっと寄り添い、いつでもかけつけられるように心掛けています。

これからも小さな子どもから高齢者まで、地域で安心して暮らせるように寄り添える訪問看護ステーションでありたいと思います。

次は「訪問看護ステーションハーティ」さんです。



西部 訪問看護ステーション上西

高関 左保

はじめまして。訪問看護ステーション上西です。

訪問看護ステーション上西は浜松市の東区にあるステーションです。近隣にはここ数年でCostcoもでき、かなりにぎやかな場所になっています。当ステーションは2017年10月に開設し、今年で6年目を迎えました。スタッフは非常勤を含め、看護師11名、療法士2名、事務1名、栄養士1名です。子育て中のスタッフも多く、20代から40代までのスタッフで賑やかに日々訪問しています。

今年は「専門性を活かしたケア・地域に根差したステーション・働きやすい職場づくり」を目標に「その人らしさに寄り添う看護」を行っています。



利用者には難病を抱えた方やターミナル期にある方も多くいます。利用者自身の辛さはもちろんですが家族が抱える迷いや悩み、不安に日々寄り添い、私たち自身も迷い考えながら利用者や家族一人一人に寄り添える看護を行っています。

また、当ステーションでは特定行為研修を終えた看護師が2名在籍しており、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連（持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整、脱水症状に対する輸液による補正）、創傷管理関連（褥瘡又は慢性創傷の治療における血流の無い壊死組織の除去）、ろう孔管理関連（胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換）、呼吸器関連（気管カニューレの交換）を手順書に基づき実施しています。

医師との連携を密にしながら、いつも訪問している看護師が特定行為を行う事で利用者や家族の安心にもつながっていると実感しています。また、特定行為研修で学んだことをステーション内でもフィードバックしながらステーション全体の看護の質の向上にも取り組んでいます。

これからも地域の皆様に貢献できるよう、日々研鑽しながら利用者や家族に寄り添う看護を行っていきたいと思います。

次は「坂の上訪問看護ステーションあずきもち」さんです。



は20～30歳代。その中にポツンと一人40代の私が座っているという不思議な光景でした。グループワークでは常にファシリテーターになりがちでしたが、若者の悩みや本音を聞くなど貴重な経験ができ充実した研修となりました。

いざ、莉子さんを迎えて「新卒訪問看護師 育成プログラム」に沿って毎日の計画を立案しました。毎日の振り返りや週1回の反省会では「莉子さんに無理をさせていないか」「体調を崩していないか」など細かい所まで気を遣い、一緒に日々成長していたつもりです。

訪問看護は病院勤務と違い、訪問先まで車で向かう事が多く、常に同じ時間を過ごします。

莉子さんとは私生活を含め、沢山の話をしました。もともと訪問看護に強い熱意があり、大学時代に当ステーションのインターンシップに参加し、当ステーションの特徴を理解されていたので、平均年齢が45歳のスタッフの中でもしっかりとした信念を持ち、利用者・家族と接する事ができていました。日々の努力で着実に力をつけ1年目の単独訪問件数も問題なくクリアでき、2年目を迎える事ができました。このタイミングで私の長期研修と重なり不安な2年目を過ごさせてしまいましたが、他のスタッフの協力もあり順調に学びを深め、目標通り緊急対応ができ一人携帯当番が可能となりました。

常に自己学習で学びを深めている莉子さんを見ると頭がさがり、私も負けていられないと気合が入ります。なかなか後輩ができない環境ですが、学生と接する機会を設ける事でより莉子さんが成長できると信じ、これからも陰ながら支援させてもらいたいと思います。

今後は優しさの中に厳しさを持ちながら、利用者・スタッフと接し、たくましい訪問看護師になってくれる事を願っています。



「新卒訪問看護師 遠藤莉子さんについて 所長より」

つどいのおか訪問看護ステーション

所長 大村 早苗

莉子さんとの出会いは平成30年大学3年生の夏でした。インターンシップで当ステーションが初めて受け入れた学生でした。その際に「訪問看護をやりたくて看護師になった」と聞き「両親や先生から何年か病院経験を積んでから就職した方が良いと言われるが、新卒での訪問は無理なのか？」という質問をされたのを覚えています。周囲に理解を求め自分の意思を貫く姿勢「訪問看護をやりたい!!」という思いは訪問看護師を目指す上で心強さを感じました。新卒で就職してくれると決まった時には嬉しさや期待と同時に、新卒と関わることが数十年ぶりの自分にとっては戸惑いや不安があった事も事実です。

莉子さんを迎えるための準備をスタッフ皆で行いサポート体制を整えていきました。

コロナ流行拡大時期の就職で戸惑う事が多く「自分と同年代がいない職場環境や悩みを共有できる同期がいない状況で大丈夫かしら？」と思っていました。少しずつ着実に本人のペースに合わせながら、育成プログラムを活用し職場や仕事内容にも慣れていきました。技術面に関しても積極的にチャレンジし、疑問があればしっかりと質問し解決でき、自己学習も積極的に取り組んでいました。

指導者を中心にスタッフ皆でサポートし成長を見守りながら2年間が経ち、3年目に入りました。携帯当番もひとり立ちし、ステーションにはなくてはならない存在として活躍してくれています。莉子さんから気付かされた事も沢山ありました。これからも訪問看護師として皆で共に成長し、利用者に寄り添う看護を提供し続けていけるように支え合っていきたいと思います。

莉子さんの成長のために研修を受け入れて頂いた病院や見守って頂いた静岡県訪問看護ステーション協議会の方々に感謝いたします。



研修のお知らせ

在宅ケア普及啓発県民フォーラム（西部）

認定栄養ケア・ステーションちょぼの代表であり栄養士でもある栗原理江氏を講師に迎えます。気になる食や栄養に関する話を聞いてみませんか？

テーマ：元気に生活する栄養の話 ～地域の栄養士に聞いてみよう～

開催日時：令和5年2月25日(土) 13時30分～15時30分

会場：地域情報センター（浜松市中区中央一丁目12-7）

参加費：無料

申込方法：電話かFAXで協議会までお申し込みください。



事務局より

令和4年11月に、協議会のホームページをリニューアルしました

専門看護師・認定看護師・特定看護師・リハ職員・精神保健福祉士の情報が提供できるようになりました。専門職員の在籍状況はステーションの重要な情報です。

ログインし更新するとステーションの情報に反映されますので、各ステーションで行ってください。ログインするためのID・パスワードの変更はありません。ご不明な事業所は事務局にお問い合わせください。



編集後記

あけましておめでとうございます。

訪問看護ステーションにも新卒の仲間が増えてきました。

一緒に心機一転がんばるピョン♪



シェイクハンドNo.67

2023年1月発行

発行所 一般社団法人 静岡県訪問看護ステーション協議会
〒420-0839
静岡市葵区鷹匠3丁目6番3号
静岡県医師会館4階
Tel 054-297-3311
Fax 054-297-3312
e-mail sizuokahoumonst@cy.tnc.ne.jp

発行人 渡邊 昌子
編集者 木原 裕美（医療法人社団 静岡健生会）東部
金丸 純子（ハートピアの森リハビリ訪問看護ステーション）中部
大村美紀子（訪問看護ステーション天竜）西部